

地域への情報伝達について

大学 地域への情報の伝達について、これまでの議論における種々のご意見を踏まえて、更に検討を行い、必要な情報を正確に伝えることが重要であるとの観点から、発生時における自治会長への個別の連絡は行わないこととしました。実験棟で発生したことは事後となっても必ず報告する、緊急を要することについては可能な手段を駆使してお知らせする、このことに変わりはありません。これらのことを「連絡の対象(発生した事象)」、「連絡の緊急度」及び「連絡の方法」の3つの要素で改めて整理しました。

住民委員 自治会に入会していない住民が相当数いて、自治会長はどのようにしてその方たちへ情報を伝えていけばよいのかとの議論があった中、近隣住民全員に伝わる方法を考えているのはとてもよい。緊急度に応じていろいろな連絡方法を用意していることは評価する。

住民委員 連絡方法の一つとして野外スピーカーの設置を検討中とのこと、もちろん使う機会がないに越したことはないが、緊急度が高いときには有用となると思う。距離によっては正確に内容が聞き取れないかもしれないが、防災メールなど他の連絡方法への誘導になる。

大学 野外スピーカー設置についてはこれまでも議論がありましたが、その必要性について、委員の皆さんのご意見を伺いたい。

住民委員 野外スピーカーの活用は、高い緊急性があり住民に早急に知らせる必要があるときを想

定していると思うが、そのような場合は警察、消防、行政等が介入し、それらから近隣住民に連絡があると思うので、必ずしも野外スピーカーが必要だとは思わない。

住民委員 野外スピーカーはどうしても明瞭に聞こえない、実験施設から不明瞭で断片的な情報が聞こえてくると、住民が混乱して危険だと思う。それより、防災メールの登録者が増えるように、行政側からもっと周知を徹底してほしい。

有識者委員 リスク管理の観点からは、野外スピーカーは緊急性が高く危険な状況での活用を想定しており、そのリスクを考えると使用する可能性が低くても設置したほうがよい。

大学 野外スピーカーについては、いただいた意見を踏まえ更に検討を深めたいと思います。



実験棟の病原体等取扱安全管理基準について

大学 前回の地域連絡協議会では「長崎大学高度感染症研究センター実験棟生物災害等防止安全管理規則」(以下「規則」という。)について協議しました。今回、規則の下にその厳格な運用を行うために定める「長崎大学高度感染症研究センター実験棟病原体等取扱安全管理基準」(以下「基準」という。)の案を作りました。

大学 基準には、これまでの地域連絡協議会での議論を踏まえて、BSL-4実験室の使用前・使用中・使用後の安全管理項目、陽圧防護服の安全確認事項、実験動物の逸走・行方不明の防止のための措置(以上、実際の運用ではチェックシート等を使用)のほか、災害時の情報伝達、情報公開などについて定めています。

住民委員 前回の規則と今回の基準には、これまでの協議でお願いしていた内容がかなり取り入れてあり評価している。基準に定めたものをチェックシートとして整理するのは困難で膨大な作業となると思うが、厳格な運用ができるものを作ってもらいたい。また、実験従事者が基準に基づき行動するにあたって、相当の記録が残ると思うので適切に管理してもらいたい。

住民委員 検討されている病原体安全管理体制は、既存の長崎大学の管理体制のままなのか、BSL-4実験棟については新たな管理体制が構築されるものと思っていた。

大学 BSL-4実験棟については、本学の既存の体制とは異なる病原体安全管理体制となります。独自の「バイオリスク管理委員会」を設置し、専任の病原体取扱主任者を置きます、また「バイオセーフティ管理監」を置き安全管理に関する監査を強化します。

有識者委員 国立感染症研究所の村山庁舎施設の規則・基準との比較について、可能な範囲で説明してもらいたい。

大学 引き続き、ご意見をいただきたいと思



地域連絡協議会とは

高度安全実験(BSL-4)施設の検討状況に関する情報を地域の皆様へお伝えし、議論を行っていくために、長崎県、長崎市及び長崎大学で構成する三者連絡協議会に置かれたものです。

BSLとは

バイオセーフティレベル(Biosafety Level)の略で、ウイルスや細菌などの病原体を生物学的な危険度で分類した指標であり、同時にそれらを取り扱う実験施設の分類です。病原体の分類は、その病原性(病気の重篤度、感染性等)、ワクチンや治療法の有無、公衆衛生上の重要性を考慮して、危険度の高い方からBSL-4~BSL-1に分類されています。それに合わせて、実験施設も、病原体封じ込めレベルや管理レベルの高い方からBSL-4~BSL-1に分類されています。感染すると、有効な治療法がなく、また予防法もない病原体(エボラウイルスやマールブルグウイルス等)にも対応できる、安全性を十分に備えた施設がBSL-4施設です。